

## <編集後記>

桜のつぼみが膨らむころ、桜色の初年次教育学会誌を会員の皆さまにお届けできることを、喜ばしく思います。

明星大学で行われました第8回大会で大会校が企画いたしました「公開シンポジウム」と研究担当理事が企画いたしました「課題研究シンポジウム」の双方で相異なる視点から「高大接続」というホットなテーマを扱っておりましたが、本号の特色の1つは、両シンポジウムの詳細な報告が掲載されていることです。今後の入試制度改革に関わる情報提供も含め、大いに活用願いたいと思います。

投稿論文に目を移しますと、掲載に至った論文数は、前号の1編から、3編に増えました。これは、投稿論文の平均水準が上がった結果であると言えます。また、以下に再周知いたします投稿執筆に関する情報提供がある程度の成果を示したと解釈できるかもしれません。しかしながら、全投稿数は10編を超えておりますので、掲載に至っていない論文のほうが多いというのが実情です。学会誌の中核をなすのは投稿論文ですから、さらに多くの会員からの論文が掲載されるようになることを願っています。

前号の編集後記でも書きましたが、投稿を考える際、藤田哲也前編集委員長が第7巻第1号に寄稿されました「初年次教育学会誌への投稿論文の執筆について」を是非熟読なさってください。そのうえで、初年次教育学会ウェブサイトにあります「初年次教育学会誌執筆要領」に従い投稿なさってください。また、執筆用テンプレートにはさらに具体的な説明が書かれていますので、原稿作成時にはこれを参考にして指定した書式に則っているかどうか確認してください。

本学会誌の刊行を使命とする当学会誌編集委員会は、6人の編集委員によって構成されていますが、各編集委員の任期は4年であり、2年ごとに3名ずつが入れ替わります。本年度はこの「入れ替わり」の年度に当たっており、新たに編集委員会に加わっていただいた沖理事、横山理事、望月会員と3年目を迎えた絹川会員(副編集委員長)、塚原会員、私の6人体制で編集作業に従事いたしました。そして、チームワーク良く編集作業が行われましたことに対し、編集委員諸氏に心から感謝しています。さて、そのでき映えはいかがでしょう。忌憚のないご意見・ご感想を学会事務局までお寄せください。

編集委員会を代表して 笹金光徳